2020年1月30日中日本高速道路株式会社

2019 年における交通死亡事故の発生状況

~事故や故障などで停止した車両への追突事故が多発しています~

中日本高速道路株式会社が管理する高速道路で 2019 年(1 月 1 日~12 月 31 日)に発生した交通死亡事故件数についてとりまとめましたので、お知らせします。

- ① 死亡事故件数は31件、死亡者数は33名。2018年対比で、5件・5名の減少。
- ② 件数、人数ともに民営化(2005年)以降で最も少ない。
- ③ 事故形態では、対停止車両追突事故(渋滞または事故などで高速道路上に停止していた車両に追突する 事故)が10件で、全体のおよそ3割を占める。
- ④ ③のうち、事故や故障などでやむを得ず停止した車両への追突事故が 5 件で、対停止車両追突事故の半数を占める。

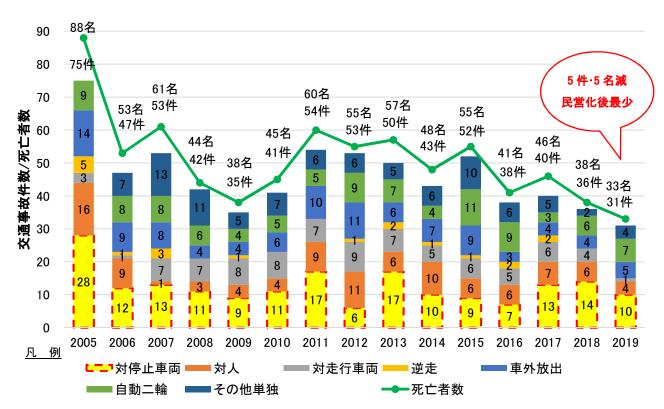


図 1 交通死亡事故発生状況の推移および年別形態別件数内訳(当社調べ)

1. 重大事故対策

暫定2車線区間の正面衝突防止効果が期待できるワイヤロープの設置





すべての高速道路本線の合流部に逆走対策(路面標示・ラバーポール・矢印標識)を実施済。また、すべてのインターチェンジの入口部にも逆走対策実施中。さらに公募した逆走対策を今後、現地展開予定。



大型矢印路面標示とラバーポール



高速道路入口部のカラー舗装

2. その他の交通事故対策

高機能舗装やガードレールの改良、薄層舗装や凹凸路面標示など、走行環境を改善するハード対策を実施中



密粒舗装

高機能舗装



薄層舗装



凹凸路面標示



凹凸型注意喚起舗装

3. 渋滞末尾車両などへの追突事故防止対策の一例

■標識車による情報提供

渋滞情報の提供や渋滞に応じて注意を喚起する標識車 を工事規制箇所の手前や渋滞末尾に配置





■注意喚起内容の工夫

「渋滞時ハザード点灯」の注意喚起を看板や簡易 LED 情報板で表示





■交通集中や規制による渋滞箇所の手前での迂回・経路 情報の提供







■振動による注意喚起

舗装表面に台形状のリブ(バイブラライン)を設け、 車両通過時に発生する音と振動により注意喚起



4. 事故多発箇所での安全対策の一例

■事故多発箇所手前での情報提供など

簡易 LED 板や看板などで事故多発箇所をお知らせし、注意喚起を実施中。







簡易 LED 板



注意喚起看板

■事故多発箇所での路面標示

事故多発箇所には導流レーンマークなどを設置し、視線誘導や速度抑制対策を実施中。





導流レーンマーク

<事故概要>

【発生日時】2019年11月9日(土)18:35頃

【発生場所】E20 中央自動車道 上り線 54.7KP(上野原 IC~大月 IC 間)

【死 傷 者】死亡1名 追越車線規制作業中の交通管理隊員

【概要】普通乗用車の前方不注視により、前方の車両の車線変更に気付くのが遅れ、 右へハンドルを切り、交通管理隊員をはねたもの

○交通規制作業に対する安全対策

表示内容が遠方からでも視認しやすいように車両の標識装置を改良(大型化)



○事故の教訓をふまえた安全啓発の取り組み

- 1) 交通安全キャンペーンなどでの啓発(高速道路マナーガイドの配布や安全の呼び掛け)
- 2) ハイウェイラジオやハイウェイテレホンによる安全走行の呼び掛け
- 3) 当社が開催する交通安全セミナーに、交通規制に対する安全走行の内容を追加
- 4) サービスエリア・パーキングエリアでの安全啓発(デジタルサイネージやインフォメーションボードによる啓発)
- 5) 全日本トラック協会などの業界団体に対する安全啓発



高速道路マナーガイド(抜粋)



交通安全セミナーを希望される企業・団体に対して、 出張講座を開催(無料)



男子トイレ前のデジタルサイネージ



マルチインフォメーションボード



デジタルサイネージやマルチインフォメーションボードでの表示内容